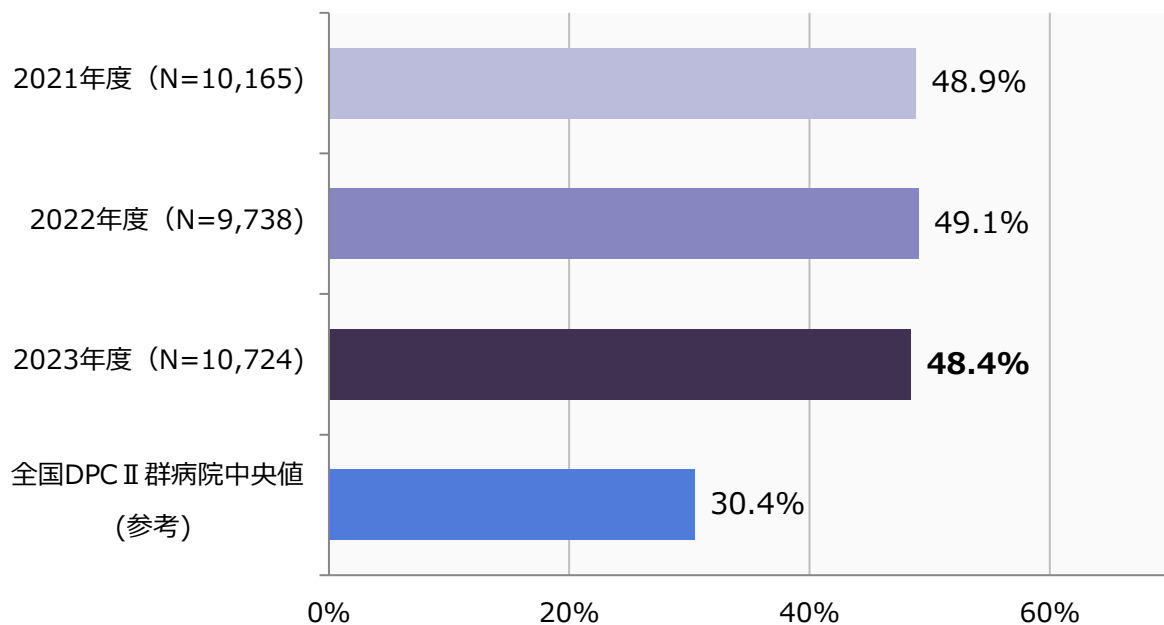


リハビリテーション介入率（実施率）

全国的に急性期の基幹病院でのリハビリ介入率は高くない現状（平均16.7%）ですが、当院では40%前後で推移しています。今後も平均在院日数は低下が予想され、より早期からリハビリ介入し、ADL低下および廃用の予防が、スムーズな転院、退院に向けて重要となります。

急性期病院ではリハビリを実施する前に転院、退院となるケースも多く、早期介入ができていることを示す指標としては介入率が適していると考えます。



当院値の定義・算出方法

分子：リハビリを実施した入院患者数
分母：全入院患者数

$$\frac{\text{分子}}{\text{分母}} \times 100 (\%)$$

※グラフ中のN数は分母の値を示している。

結果の考察および今後の取り組み

全体の介入率は前年度と比べやや減の結果となりましたが、脳神経内科、整形外科等、いわゆるリハビリの必要度が高いとされる診療科別では増加の結果が得られました。リハビリの漏れが無いようパスの見直しを行い、組み込みも漏れなく行なってきました。回診や病棟カンファレンス時に、リハビリの必要性があり医師からの指示が漏れている患者の確認は継続していきます。

文責：リハビリテーション室室長
野田 彰